令和7年度通常総会

日時：令和7年5月22日(木)
15時30分～
会場：鹿児島サンロイヤルホテル

鹿環協かわら版
みずすまし
Kakankyo

発行者
発行日　令和７年１月１日
鹿児島県環境整備事業協同組合
理事長　宮地光弘
鹿児島市宇宿２丁目９－９
URL　http://kakankyo.net

令和七年　新春を迎えて

理事長　宮地　光弘

▲宮地理事長

新年あけましておめでとうございます。

組合員、関係者の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より組合活動にご指導、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

昨年は正月早々に能登半島地震が発生したほか、台風や大雨等により各地で大きな被害が発生しております。被災された方々に改めてお見舞い申し上げます。

さて、我が国経済は、各種施策の効果もあって、緩やかに回復することが期待されますが、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しすることが懸念され、物価上昇、米国の今後の政策動向、金融資本市場の変動等の影響を十分注視していく必要があります。衆議院選挙結果に伴い、政局も不透明ですが、私ども事業者の負担軽減が図られるような施策が速やかに展開されることを期待しております。

本組合では、将来を見据えた「活動方針」に掲げる強固な経営基盤づくりや、時代の変化や多様なニーズに即した先進的対応、そして社会から信頼・評価される事業活動を目指して、各種会議や研修会等の開催など各種活動に積極的に取り組んでおります。

また、青年部においても我々業界が置かれている現状を踏まえ、必要な知識や今後行動していくべきことを習得しようと積極的に研修や視察を行い、自己研鑽に努めてくれています。

わが業界を取り巻く環境は、燃料や資材価格の高騰、少子高齢化等に加え、浄化槽法改正の動きがあるなど、大変厳しい状況にありますが、このような中にあっても、社会から信頼・評価される事業活動を推進していく必要があります。

私が申すまでもなく、経営者は日々の努力はもちろん、普段から問題意識を持って業界の置かれた状況を把握し、様々な課題解決に努めながら、常に的確に企業活動を進めていかなければなりません。

このような観点から昨年実施した事業主研修会においては、鹿児島県の綾織孝文生活排水対策室長から、浄化槽の維持管理向上に向けた環境省における方針の検討状況や本県で設置予定の法定協議会の活動方針など幅広い内容の講演をいただきました。

また、全国環境連顧問の国安克彦氏から、本県の生活排水処理施設の整備状況や将来推計人口を踏まえた今後の汚水処理施設の望ましい整備の方向性について提案を受けるとともに、ＩＣＴの導入・デジタル化の実装をはじめとする社会情勢の変化に対応する新たな体制整備について様々な提案を受けました。

この講演を踏まえ、私ども業界の課題や今後の取り組むべき方向性をしっかりと認識し、経営基盤の構築や一層の適正な業務推進を図っていくために具体的にどのように行動していくか、組合を挙げて検討していく必要があると考えています。

また、近年は各地で頻繁に災害が発生しておりますが、市町村から災害支援の要請があった場合に迅速かつ円滑な支援を実施できるよう、支援内容や発動要件、費用負担等を内容とする「災害時におけるし尿及び浄化槽汚泥等の収集運搬に関する協定」を県内市町村と個別に締結する取り組みを進めるとともに、組合内の必要な体制整備も進めているところであります。

環境省においては、浄化槽の維持管理の向上やデジタル化による関係者間の連携の向上など様々な検討が進められております。また、浄化槽法改正の動きもあります。業界の現状も踏まえ、適切な方向に進むよう全国環境連の一員として必要な意見をしっかりと発信していきたいと考えております。

私ども業界は、地域社会と健全な水環境の維持を図ることを通じて、生活環境の保全や公衆衛生の向上に取り組んでまいりました。

今後一層の貢献ができるよう組合員と活発に議論や対話を重ねながら事業活動を展開するとともに、次世代のリーダーの育成や組合活動への参画も図りながら、積極的に活動してまいる所存であります。

引き続き関係各位の一層のご支援、ご指導を賜りますようよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様方のこの一年のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和六年度　事業主研修会

令和六年十一月十四日「マリンパレスかごしま」において、事業主研修会を開催した。

講演Ⅰでは「浄化槽法施行状況点検検討会とりまとめと浄化槽法改正・法定協議会の動向」と題して、鹿児島県土木部生活排水対策室長綾織孝文氏より講演いただいた。

まず、浄化槽に関する不適切事例として設置届と実際の用途や使用状況が異なる事例が多く発生していることと県の対応が紹介され、人槽規模の合わない浄化槽を維持管理上の努力で適正化させることは難しくＢＯＤが基準値を大きく外れているとの説明があった。

▲県生活排水対策室
綾織室長

また、浄化槽法施行状況点検検討会における浄化槽台帳の整備や維持管理情報の電子化の推進、浄化槽事務取扱要領の改正による事務の簡素化、設置予定の法定協議会の概要等について説明があった。

講演Ⅱでは、「概成後の鹿児島県における新たな体制整備に向けた提案（社会情勢の変化に対応する新たな体制整備～関係者が共有すべき将来像～）」と題して（公財）日本環境整備教育センター元顧問（全国環境連顧問）国安克彦氏より講演いただいた。

社会情勢の変化に対応する新たな体制整備のシナリオとして、第一段階は、浄化槽システムの信頼性を向上させるために積極的な情報公開と省力化を図る、そのための情報管理システムの構築（ＩＣＴ導入・デジタルの実装）。第二段階は、情報管理システムに集積されたビックデータの解析に基づく効率化を図る、そのためにデータを社会の中で循環させて新たな需要やイノベーションを創出（ＤＸの推進）。第三段階は、新たな生活排水処理システムの提案（ＧＸ推進、脱炭素社会の構築に向けた動き）との提案であった。

デジタルといかに向き合い、新たな価値を生む変革につなげないといけないとのことであった。

今回の講演で未来に向けて変革しなければと思った。

▲全国環境連　国安顧問

◆令和六年度 第三十一回浄化槽維持管理技術研修会

令和六年十一月十四日、マリンパレスかごしまにおいて第三十一回浄化槽維持管理技術研修会が開催された。

研究発表は、まず、姶良衛生㈲より『小型化に伴う浄化槽のろ材目詰まりの課題と最適清掃法の提案』をテーマに、実験結果を写真や動画を活用し、ユーモア溢れる発表をされた。通常の清掃では、ろ材各部位の汚泥量の合計が五十キロ程度と報告された際は驚きの声があがった。このような状況を打開するため、①エンジンポンプの清掃、②ブロワーを利用しての逆洗を行う方法、③塩ビ管を使用してのガス抜きによるバブルを利用するという三つの提案があり、ガス抜きを上手に使えば、短時間の作業で効率的に逆洗と同じような効果が得られることから、この方法を採用するとのことであった。

▲姶良衛生㈲の研究発表

次に、㈱大隅衛生鹿屋の『浄化槽の計画清掃について』の発表で、地域的に区域が広範囲で、作業計画が組み難いことから、地域ごとに清掃月(奇数月)をまとめる計画清掃へ取り組んだこと、ゼンリンの地図の活用、お客様への説明方法の発表があった。その結果、一日の作業基数が一～二件程増し、走行距離も短くなったことなど非常に参考となる発表であった。

▲㈱大隅衛生鹿屋の研究発表

最後に（公財）日本環境整備教育センターの古市昌浩氏から『構造例示型・性能評価型の浄化槽に関する清掃』として、清掃の必要性・目的、清掃に関する法令の説明があった。また、型式ごとに具体的な清掃方法・留意点などの説明が行われた。次に、『浄化槽のカーボンニュートラルに係る取組』の講演が行われた。国内における地球温暖化対策として、二酸化炭素排出量削減目標二〇三〇年において二〇一三年比で四十六パーセント削減が求められ、二〇五〇年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにしなければならない点などを強調された。

▲古市昌浩氏

令和六年度第二十回 全国環境連全国大会

令和六年十月二十四日、東京都の「ヒルトン東京お台場（ペガサス）」にて、第二十回全国大会が開催された。

「マインドイノベーション！進化する循環型社会に向けた意識と行動」をテーマに全国の組合員が一同に会した。

講演は二部制で、講演Ⅰとして、環境省　廃棄物適正処理推進課　課長　松﨑裕司氏より「廃棄物・資源循環行政の最近の動向について」という演題で講演を行っていただいた。一般廃棄物・資源循環・災害廃棄物・廃棄物処理施設・浄化槽普及促進・国際展開と我が業界にかかわる事業の動向を聞くことができ、今後の行政の流れを敏感に感じていくことが必要だと思った。次に講演Ⅱとして、育成・チームビルディングコーチ　白井一幸氏より「侍ジャパンヘッドコーチに学ぶ人生の目的達成と最強のチームづくり」という演題で講演を行っていただいた。WBCでの優勝への道のりと経営者としての大切さを重ねて話していただき、チーム・会社作りには共通の目標を目指すものを定めることが大切であることを学んだ。

また、大谷翔平選手に関するホットな情報も語られ、目標よりも目的をもつことが個人を成長・躍進させる鍵だと感じた。

大会式典では全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会　会長　河野正美氏の大会式辞、優良役員・従業員表彰、政府に対する要望決議発表、大会スローガン・大会宣言の発表を行った。全国環境連二十周年記念事業として、ファシリテーターに株式会社Ridil over代表　安部敏樹氏をお招きし、「カーボンオフセット循環と浄化槽　インドネシア都市間連携のこれから！」というテーマで、SDGsパネルディスカッションを行った。インドネシア共和国マカッサル市から、環境局廃棄物管理・有害・有毒廃棄物・能力開発課　課長　バウ・アッセン氏など来賓を招いて行われ、国際的な水環境・資源環境を考える場となった。また、組合の行っている事業が世界で必要とされる事業であると実感した。

同会場で懇親会が滞りなく行われ、全国の組合員との貴重な交流の場となった。

▲パネルディスカッション

▲大会式典

美しい水を守る
フジクリーン工業株式会社
福岡支店　〒812-0016
福岡市博多区博多駅南4丁目2番10号
TEL 092-441-0222　FAX 092-441-0252
鹿児島 営業所　〒890-0072　鹿児島市新栄町25番8号　TEL 099-257-3501　FAX 099-257-3590
鹿　屋 営業所　〒893-0023　鹿屋市笠之原町1561-2　TEL 0994-43-4437　FAX 0994-43-2710
川　内 営業所　〒895-0044　薩摩川内市青山町4219番地1　TEL 0996-27-2905　FAX 0996-27-2915

MORITA×Kao　共同開発　臭気・衛生対策製品
花王が開発した液をモリタエコノス独自技術で効率的に噴霧！

菌・ウイルス除去に
ミラクルキヨラV™
菌・ウイルスを99%除去※
エタノール不使用で引火の心配なし！
※すべての菌・ウイルスを除去するわけではありません。
生ゴミ臭対策に
ミラクルキヨラ™
専用香料で不快な悪臭を爽やかな香りに！
ポンプオイルに添加するだけ！
不快臭対策に
ミラクルチェンジャー™
不快な悪臭を心地よい香りに変化！

環境保全車両の開発・製造・販売
株式会社モリタエコノス
Webサイトは こちらから
このQRコードはアクセス解析のためにCookieを使用しています。
アクセス解析は匿名で収集されており個人を特定するものではありません。
この機能はCookieを無効にすることで、Cookieを用いた収集を拒否することができます。
お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。
QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

錦江ブロック研修会

十月四日姶良市の加音ホールにて錦江ブロック研修会を組合員と役員三十五名が参加し開催した。

講師に鹿児島大学教育共通センター准教授　井村隆介氏を迎えて『地域防災の在り方について～みんなで考える防災』のテーマで講演された。

まず、「災害はいつどこで起きてもおかしくない状況。皆さんはどのくらい備えていますか。電話番号はどれくらい覚えてますか」などの質問から始まった。

ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動（公助）は交通網の寸断や火災などで十分対応できない恐れがあるため、個人で災害に備える（自助）とともに、地域での助け合い（共助）による地域の防災力、これらの連携が重要となる。自分の命は自分で守る、どういう行動が出来るかを考え普段から備えてください。

最後に「皆さんは、人の生活に携わる仕事であり、皆さんが被災すると、支えている市民の方が困る。過去の経験をふまえて備え、学んでいかないといけない。」と話された。

大隅ブロック研修会

令和六年十月十八日、鹿屋市のホテル大蔵にて、大隅ブロック研修会が開催された。

研修会は、株式会社三州衛生公社取締役常務　松原剛氏（鹿環協青年部会長）を講師に迎えて、「廃棄物処理業界における九州及び全国組織についての概要」というテーマで講話をいただいた。

全国及び九州の一般廃棄物団体と構成、今後の一般廃棄物団体における方向性についてなどの内容で本研修会は進んだ。それぞれの一般廃棄物団体の歴史・各団体の特徴などをわかりやすく説明され、今の現状を理解することができた。

また、災害時の業務の関わり方や、将来さらなる発展のために自治体との連携の大切さ、一般廃棄物団体として全組合が同じ方向を向いて業務や思いを一つにしていく必要性を感じることができた。

質問も多くあり、有意義な研修会となった。

今回の研修会は他ブロックからの複数人の出席もあり、組合全体としてとても興味深い内容であった。

南薩・熊毛ブロック研修会

令和六年十一月十五日㈲南薩東京社研修室にてオフィスプレシャスマナー代表松永さとみ氏を講師として招き、南薩・熊毛ブロック社員対象研修会（参加者二十六名）を開催した。

「お客様に好印象を与える対応術とトラブル対応とは」を研修課題としてロールプレイングを織り交ぜた研修会となった。

二時間半ほどの研修会になったが、企業人として高感度の高い所作や、思いやりとおもてなしの心で慮ることなどの大切さのほか、問題が発生した際の報告・連絡・相談の大切さ、お客様を満足させるために必要な対応など丁寧な説明があった。また、各自各社で有った問題事例等の発表も有り、トラブルが起きた時の対応方法を共有し、活発に意見交換しながら更に掘り下げた対処方法を皆で話し合った。

今回の研修では入社三年以内もしくは管理職を対象とし自社に帰ってからも部下の育成等につながる研修会であった。

大島ブロック研修会

十一月二十日から二十一日にかけて、大島北及び大島南ブロック研修会が、組合員と本部から宮地理事長など十名の理事・監事が参加し開催された。

二十日は、大島本島の瀬戸内町、宇検村、大和村、二十一日は、奄美市、龍郷町を訪問した後、沖永良部に行き、知名町、和泊町を表敬訪問した。

それぞれの市町村では、近年、全国各地で大規模災害が発生し、災害廃棄物処理に係る事前の備えの重要性が高まっていることから、市町村から協力要請があった場合に迅速かつ円滑が実施できるように、当組合と各市町村による災害支援協定の締結について協議を進めていくことを確認した。

また、市町村の一般廃棄物処理責任を踏まえて、廃棄物処理業務に係る労務費・原材料費等の適切に転嫁できるような環境整備への配慮を要請した。

そのあと参加者で今後の組合活動に係る熱心な意見交換を行った。

青年部第一回定例会

令和六年七月十二日に午後二時よりサンプラザ天文館で、鹿環協青年部十五名と管理協会青年部八名が出席し青年部定例会が行われた。

最初に、合同会社バリュープロデューズの林晋太郎代表社員が「水・環境分野における日本の途上国支援」と題してご講演を行った。農林水産省に入り海外勤務も含めて様々な行政機関に勤務した経験の話をされた。

タンザニアにおいては中心街の水道管の整備・更新を実施し、また日本国大使館では、草の根無償資金協力というスキームを使いタンザニアの様々な地域で水・衛生関連の支援事業を実施してきた。

生活排水などの汚水処理関連の支援が無く、まだまだ環境分野の国民・政府の意識が低く、また優先順位が低い、しかも道路の排水もほとんど整備されておらず、生活排水等は海に垂れ流しのため海の衛生状況がひどい状態である。

青年部が海外で事業する場合は国際協力機構（ＪＩＣＡ）等を使い、水・衛生・環境面、特に汚水処理関係を支援して、他の途上国同様意識啓発から始める必要がある。

◆青年部北海道研修

令和六年九月二十六日、北海道大学において、令和六年度第二回鹿環協青年部定例会が開催され、当組合から二十二名が参加した。

北海道大学教授加藤悟氏、岩渕和則氏、株式会社シティック武部史彦氏を講師に招き、「ＳＤＧｓの取り組みについて」「バイオマスを活用したサスティナブルな社会」「汚泥を利用した有機性水処理用機能調整剤について」というテーマで講演いただいた。

各種講演では、基本的な説明から、サスティナビリティ、サーキュラーエコノミーなど今後目指していくべき方向性まで、幅広くお話いただけた。

令和六年九月二十七日、札幌市のホテルで、ＮＰＯ法人浄化槽ナビゲータ認証機構の研修会に当組合から二十一名が参加した。ＮＰＯ法人日本トイレ研究所の加藤代表理事が「災害時のトイレ対策」、東洋大学都市環境デザイン学科の山崎教授が「災害時におけるトイレシステムを考える」、環境省浄化槽推進室の沼田室長が「浄化槽行政の課題と今後の方向性」についてそれぞれ講演した。

◆青年部主管勉強会

令和六年十月二十一日、ＮＣサンプラザ二階ホールにて、九州地区青年部協議会と当組合の第十二回青年部主管勉強会が九州各県から五十九名が参加し、合同開催されました。

まず、各県活動報告が行われ、九州地区での各県の活動状況及び災害対策についての平常時、発災時の取組・対応を共有できた。

その後、研修会が開催され、第一部が鹿児島県環境保全協会　木佐貫事務局長と大町検査部長を講師に『全国の浄化槽実態と法定検査の違いについて』、第二部が鹿児島県土木部都市計画課生活排水対策室綾織室長を講師に『浄化槽法施行点検検討会概要と浄化槽法改正について』のテーマで講演された。

全国の浄化槽維持管理状況、能登半島地震における浄化槽の状況、浄化槽法改正に向けた動きなど多くの情報を九州地区の青年部で共有できた貴重な機会となりました。

◆全国環境連青年部研修会

全国環境連青年部研修会が十一月十九日、福岡市内の八仙閣で開催された。青年部員や福岡県永野会長など約百人が参加（鹿環協十三名参加）し、「進化する我々が使えるツール」と題し、第二十回全国大会の協賛企業によるプレゼンテーションが行われた。

岡山県の田邊青年部長より「青年部員は現場の第一線で活躍しています。気になる商品の企業と交流を深めてください。」と挨拶。

参加企業八社は、自社製品のＰＲなど工夫を凝らした熱いプレゼンで、業務の効率化と作業の正確性の向上につながる数々の製品が紹介され、企業と青年部員にとって有意義な研修会となった。本社が石川県の日環商事より能登半島地震の際の災害支援に対するお礼が述べられて、悲しい記憶とともに我々業界の災害支援の責任と重要性を再認識した。

また、フルスペック開催となり、研修会終了後の懇親会では、全国青年部員や企業との情報交換・親睦を深める事が出来た。

◆健康づくり研修会

十月十一日、『健康づくり研修会』が南九州カントリークラブ及びホテル・レクストン鹿児島で行われた。天候にも恵まれ、ゴルフコンペには、二十一名が参加し、文化清掃社の吉田茂氏が優勝した。

健康ミニ研修として、「鹿児島焼酎の魅力とアメリカ人から見た焼酎」というテーマで、焼酎マイスター／国際唎酒師であるエイリー麻弥さんを講師に招き、講演いただいた。

アメリカ出身でＡＬＴとして来鹿し、焼酎に魅了され鹿児島に移住して十三年になる麻弥さんから、アメリカ人ならではの視点で鹿児島焼酎について話をされた。参加者から、焼酎を広める方法、おいしい飲み方（外国人は酒を水で割る習慣がない）をはじめ、鹿児島の生活で戸惑うことなど様々な質問が飛び、我々が焼酎について再認識する非常に良い機会となった。麻弥さんは我々の質問が面白かったと話すなど、互いの習慣の違いや多文化共生を考えさせられる興味深い研修会であった。

その後の懇親会も成績発表などが行われ、笑いの絶えない楽しい会となった。

編集後記

災害が起きる前にできること

近年は自然災害が多く、万が一に備えておく必要性を強く感じている方も多いのではないでしょうか。

水道、電気、ガスなどのインフラの停止も考え、長期保存できるパンのような調理不要のもの、レトルト食品など力セットコンロで温めて食べられるものを中心に。ビタミンが不足しやすいのでフルーツ缶詰などの用意も。日頃から使う加工食品を多めにストックし、定期的に消費するローリングストックで賢く備蓄する。

リアルタイムな情報収集やＳＮＳでの情報交換など、スマートフォンが災害時の生活にも必需品となった今、防災に"電力の備蓄"は欠かせません。モバイルバッテリーのほかに、小型家電も使用可能な大容量バッテリーなどの充電器があると安心です。最近は災害時でも電力が確保できるよう、太陽光発電や蓄電池を備えた住宅もあります。近年の災害では電気自動車なども非常用電源として活用されました。

もちろん飲料水、食料品、救急用品、衛生用品。さらに、ヘルメット、防災ずきん、軍手などの手袋、懐中電灯、ヘッドランプ、携帯ラジオ、予備電池、タオル、防寒用アルミシート。その他は、貴重品（預金通帳、印鑑、現金）、常備薬、医療関係備品（健康保険証、お薬手帳）なども大事です。

（有）サニテック　藤白 啓伍